

ほんばこ



No. **65**

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 65 号 (通巻第 81 号)

2021 年 11 月 30 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教育図書館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

● 目 次 ●

・子どもの「知りたい」にむきあうこと 鈴木 佐知 2 ~ 3 p

《 図 書 紹 介 》

・『学校の ICT 活用・GIGA スクール構想を支える ICT 支援員』
情報ネットワーク教育活用研究協議会監修 ICT 支援員編集委員会編著
日本標準 2021. 10

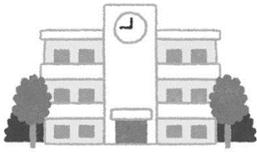
・『恐れのない組織』
「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす
エイミー・C・エドモンドソン著 野津智子訳 英治出版 2021. 2

紹介：藤川 伸治 4 ~ 5 p

・最近の受入図書 (2021年 8 月~2021年11月受入) 6 ~ 7 p

・教育図書館のご案内 8 p

子どもの「知りたい」に むきあうこと



鈴木 佐 知

学級文庫

私は小学校のころ、クラスの「本係」を何度も担当していました。学級文庫を整理すること、貸し出し・返却の手続きをすること、本の紹介をすることが主な仕事でした。たまに担任の先生が新しい本（おそらくご自分で購入されていたと思います）を持ってきてくださり、その本を誰よりも早く読むこともできました。学級文庫の本がきっかけで好きになった本もたくさんありました。とくに、子どもの絵や詩、童話が掲載されていた「いちごえほん」という月刊誌が好きで、あとから自分でも買うようになりました。今も家に置いてあります。

教室の子どもたちは学級文庫をよく見えています。学級文庫はそれぞれの教室にあるので、学年やクラスごとに置いてある本がちがいます。高学年の教室なら国語の教科書に出てきた作品に関連する本や社会科で学習している歴史の本などが、低学年の教室には図鑑や絵本などが多くあります。新学期、新しい教室に行くとき、どんな本があるのか、自分自身も楽しみです。

「何でもある」「わからないことがあったら行く」ところ

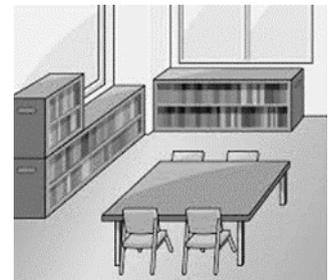
学級文庫は学校生活のちょっとしたすきま時間に読める本があるのに対して、学校の図書室・図書館は「何でもある」「わからないことがあったら行く」ところになっています。だからこそ、いつでも開いているべきであり、わ



からないことを聞くことができる誰かがいるべきなのだと思います。「学校図書館ガイドライン」には、学校図書館について「学校教育において欠くことのできない設備であり、児童の想像力を培い、学習に対する興味・関心等を引き起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場である『読書センター』としての機能、児童の自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容をかかしてその理解を深めたりする『学習センター』としての機能、児童や教職員の情報ニーズに対応したり、児童の情報収集・選択・活用能力を育成したりする『情報センター』としての機能を有している」とされています。しかし、最新の「学校図書館の現状に関する調査」によると、「学校司書」を配置している学校の割合は、小・中・高等学校でそれぞれ68.8%、64.1%、63.0%にとどまっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響での 学校図書館

昨年、突然の休校にはじまった新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校図書館もその対応にせまられました。休校中、読んで元気になる本を紹介す



るとりくみや子どもたちに図書館だよりや本を郵送するとりくみをしたこと、再開後には「読み聞かせ」や調べ学習での利用、図書委員会活動においてもこれまでとちがった工夫が必要になったことなどが昨年の学校図書館全国集会で報告されました。今年度の集会では学校司書と学級担任が子どもの学習の中でどのように連携するか、また、学校図書館を中心とした児童・生徒の活動をどうつくっていくのかなど、学校図書館教育実践等の報告がおこなわれました。意見交換の中で学校司

書の視点から授業を見ることによって、新たな活動が生まれ、さまざまな可能性が広がることを実感しました。子どものゆたかな読書活動をささえ、子どもの「知りたい」に応える学校図書館の重要性と必要性についての認識を深めることができました。

「知りたい」「調べたい」という思い

私が二校めに赴任した小学校は、校舎のまわりが田んぼで囲まれ、近所で飼われている牛の声が聞こえてくるころにありました。近くには古墳があり、新しい住宅地もあり、その一方で昔ながらの旧街道もあるようなところでは



3年生の担任をしていたとき、ちょうど「総合的な学習の時間」が始まりました。日々の登下校の中で子どもたちはいろんな発見をしてきていました。「池の名前が不思議。どうしてこの名前がついたのか」「昔、電車が通っていた廃線あとがあった」「あの大きな建物は何をしているところなのか」……、気になっていること、不思議に思っていること、聞いてみたいことが次から次へと出てきます。そこで、子どもたちが暮らすこの環境をまるごと題材にし、「地域の百科事典」を作って、2年生に紹介することを最終のゴールにして、1年間かけたとりくみをおこないました。

子どもたちは知りたい、調べたいという思いや気もちをもっているものの、それを「どうやったら調べられるのか」「何を見たらわかるのか」「どの本にかいてあるのか」が課題でした。今であれば、端末を使って調べるのだと思いますが、当時は知っていそうな人を探すことからスタートしました。校長先生に頼みに行ったり、昔のことをよく知っていそうな近所のおじいちゃんにお手紙を書いて教室にきてもらい、お話をしてもらっ

たりしました。また、実際に見学に出かけたり、昔のことが書いてある本をさがして読んだりするなかですこしずつ明らかになっていくこともありましたが、聞いても調べてもわからないままのこともありましたが、地域の人が願っていることや思っていることに気づくこともできました。そうやってわかったことや気づいたことをそのつど画用紙にまとめ、それを教室の後ろに置いた大きな段ボール箱の中に1年間貯めていきました。学年末にその箱から画用紙を取り出して、特大のクリアファイルに入れ、「百科事典」にしました。なかなか思うようにすすまないこともありましたが、子どもの「知りたい」「調べたい」という思いが学びのもとになるのだということを初めて実感できました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「誰かにきくこと」や「見に行ってみる」ことなど、人と会うことや、話を聞くことなど、これまで当たり前のようにしていた活動が制限されることも多くなっていますが、子どもたちの「知りたい」という思いに応えることのできる場のひとつが学校図書館です。知っていくことやみんなでわかるようになっていくことが楽しい、これからもそんな学びを大切にしたいと思います。

(日本教職員組合 中央執行委員)

教育図書館について

教育図書館は、1966年10月1日、(財)日本教育会館の附設図書館として設立されました。教育関係図書を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、教育文化総合研究所(略称教育総研、前身は国民教育研究所)の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。

《図書紹介 1》



『学校のICT活用・GIGAスクール構想を支えるICT支援員』

情報ネットワーク教育活用研究協議会監修

ICT支援員編集委員会編著 日本標準 2021.10

みなさんに知ってほしいことがあります。それは、GIGAスクールの実践に欠かせないスタッフであるICT支援員が置かれている現状です。本書は、ICT支援員向けの書籍ですが、教育委員会職員・管理職・教職員にとって重要な情報が満載です。

Chapter 1では、コロナ禍とGIGAスクール構想により浮かび上がってきた「教育の情報化」の課題がまとめられています。「1人1台端末」など大規模な「教育の情報化」は、影響が子どもたちの日常生活全般に及ぶことから、広い範囲の視点から事業全体を捉えることが必要であると書かれています。一部の担当部署の一部の担当者だけで対応できる規模ではないのです。「教育の情報化」を組織的に進めるための体制について具体的に提示してあり、とても参考になります。

組織的に「教育の情報化」を進める体制にICT支援をどう位置付けるか、業務の範囲、ICT支援員業務を委託するための要件が示されています。例えば、ICT支援員が請負の場合、教職員からの指示命令はできないこと、不法残業が発生させないことなど、労務管理上、法令を遵守すべ

き留意点もまとめてあります。

ICT支援員の研修をされている五十嵐さんの支援員の現状の労働環境についての言葉は強烈です。

「ICT支援員業界は、今危機的な状況です。ICT支援員は生身の人間で物品ではないので、数字合わせのために調達されるようなことであってはなりません。」

支援員がモノ扱いされているという現実があるのです。支援員が対応できない場合「支援員のくせに」みたいな扱いを受ける、と訴えています。GIGAスクール構想の混乱した状態の矢面に立ったICT支援員も多く、「支援員をやっているが、もう心が折れてしまってそろそろ辞めます」という人もすでに出ているとのこと。

Chapter 2では、信頼されるICT支援員になるためのスキルなどが細かく書かれています。コラム「学校内で気をつけること」に次のように書かれています。

「給湯室のお茶やお湯は勝手に使ってはいけません。教員から使ってよいと言われても、なるべく自分のものは自分で持参しましょう。誰か1人の教員が良いとおっしゃっても、必ずしもそれが学校全体の意見とは限りません。むやみに借りようとしない、その都度許可をとる、丁寧にお礼を言うことは社会人としての常識です。」

コラム以外にも、教員への気配りをするよう、繰り返し書かれています。ICT支援員は、今や学校職場には、必須の職員ですし、勤務されている時は、同僚の一人です。ICT支援員が、教員に対して、過度に気を使いながら仕事をされているとしたら、ICT支援員の専門性は生かされません。「教育の情報化」を進めるには、支援員がやりがいを持って働ける労働条件、職場環境の整備を訴えたこの書籍は教育関係者必読の書籍です。

(藤川伸治)

《図書紹介 2》



『恐れのない組織』

「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす

エイミー・C・エドモンドソン／著 野津智子／訳
英治出版 2021.2

学校が、子どもの最善の利益を保障する場であるためには、個々の教職員の努力だけではなく、学校組織全体のあり方が問われている。同僚性や学校の組織力を高めるための管理職のリーダーシップの向上が必要である。本書は、そのための学びと実践に最適な教材と言える。

筆者は、病院、工場、学校、政府機関をはじめとする様々な組織においてパフォーマンスに差が生じる要因を研究し、対人関係のリスクを取っても安全だと信じられる職場環境（心理的安全性）であるかが重要であることを明らかにした。対人関係上のリスクとは、同僚からの拒絶、軽蔑などをいう。そのリスクがない職場では、安心して懸念や間違いを管理職に伝えることができる。職員会議で、他の教職員とは違う趣旨の発言をしようと思うと、躊躇してしまうのも、その発言によって同僚からの批判など自分が抱えるリスクを避けたいからである。その結果として、傍観するという態度を選択する。筆者は、心理的安全性が保たれていない組織には、波風を立てないために歩調を合わせる沈黙の文化があるという。まさに、職

員室の同調圧力を生む要因であろう。

社会がグローバルで複雑になるにつれ、チームで行う仕事が増え、協働する時間が20年前に比べて50%増加し、よく話し合い、協働する組織が必要だと指摘されている。心理的安全性がある職場では、従業員が不安を覚えることなくアイデアを提供し、情報を共有し、失敗を報告する風土が育まれる。

病院における心理的安全性とミスの発生数との関係に係る興味深い調査結果も紹介されている。心理的安全性が低いグループより高いほうが、看護師は看護師長に多くのミスを経験していた。さらに、患者の安全が部署内で特に優先されていると看護師が思い、なおかつ心理的安全性が高いグループのほうがミスが少なかったのだ。対照的に、患者の安全に全力を尽くすことに納得はしているが、心理的安全性が低い場合、看護師はより多くミスをしてしまったのである。心理的安全性があれば、ミスについて率直に話すことができ、ミスの原因を分析し、改善をすることが可能となるのだ。

心理的安全性を育むためにはリーダーのあり方が深く関わってくる。リーダーが、トップダウンで、些細なミスも許さず、職員が「ビクビクし、言われることをするしかない」と感じている職場では、ミスはリーダーのもとには伝えられないという。気さくで話しやすく、自分が完ぺきではなくミスをする人間であることを認識し、他者から積極的に意見を求めるリーダーは、組織的に心理的安全性をつくり、高めていくと述べられている。ある大企業のCEOが「間違えること自体は悪くない。問題は、間違いから学んでいるかどうかだ」と述べたと紹介されている。つまり、学習する組織になるには、心理的安全性が基盤となっているという指摘であり、教育関係者は真摯に受け止めてほしい。

(藤川伸治)

最近の受入図書

(2021年8月～2021年11月受入)

【日教組刊行物】

- 『日本の教育』第70集 日本教職員組合編著 (株)アドバンテージサーバー 2021.9
- 『憲法・平和・教育を守る母と女性教職員の会 全国集会 報告集』2017年 日本教職員組合編
- 『憲法・平和・教育を守る母と女性教職員の会 全国集会 討議資料』2017年・2019年・2021年 日本教職員組合編 (株)アドバンテージサーバー
- 『第12回 TOMO-KEN 青年教育実践交流集会 2021』日本教職員組合編 2021.10
- 『日教組政策制度要求と提言』2021～2022年度版 日本教職員組合編

【教育総研・県教組刊行物】

- 『道徳教育の実践にあたって』道徳・人権教育冊子作成委員会 (株)アドバンテージサーバー 2021.5

【防災・減災】

- 『SDGsと防災教育』藤岡達也著 大修館書店 2021.8
- 『東日本大震災復興の教訓・ノウハウ集』復興庁編 ぎょうせい 2021.9
- 『人はなぜ逃げおくれるのか』広瀬弘忠著 集英社 2004.1

【和雑誌】

- 『時事通信・内外教育版』
第694号～第725号 (1956.1～4)
第726号～第760号 (1956.5～8)
第761号～第796号 (1956.9～12)
第827号～第865号 (1957.5～8)

【文部科学省関係】

- 『諸外国の教育動向 2020年度版』第159集 文部科学省 明石書店 2021.9

- 『文部科学白書 令和2年度版』文部科学省編 株式会社サンワ 2021.7

【平和教育】

- 『秋田県の戦争遺跡』秋田県戦争遺跡研究会編 秋田文化出版株式会社 2020.11
- 『日本人の戦争』ドナルド キーン著 角地幸男 訳 文藝春秋 2020.2

【教育・経済・社会】

- 『学校のICT活用・GIGAスクール構想を支えるICT支援員』情報ネットワーク教育活用研究協議会監修 ICT支援員編集委員会編著 日本標準 2021.10
- 『エリックの赤・緑』Julie Anderson and David López原作 ごとうあさほ翻訳 しきかく学習カラーメイト 2021.7
- 『北欧の学校教育とWell-being』福田誠治著 東信堂 2021.7
- 『連合運動史』第6巻 (2014.10～2019.9) 連合運動史刊行委員会 2021.9
- 『教育論の新常識』松岡亮二著 中央公論新社 2021.9
- 『断片的なものの社会学』岸政彦著 朝日出版社 2015.6
- 『学校で使える心理技法入門』岡本泰弘著 少年写真新聞社 2021.6
- 『学校の役割ってなんだろう』中澤渉著 筑摩書房 2021.9
- 『教育論の新常識』松岡亮二編著 中央公論新社 2021.9
- 『スクールカウンセリングのこれから』石隈利紀 家近早苗著 創元社 2021.8
- 『失敗から学ぶ』石井英真監修 東洋館出版社 2021.7
- 『GIGAスクール構想で進化する学校、取り残される学校』平井聡一郎編 教育開発研究所 2021.9

『大学生のための情報リテラシー』篠原正典監修
上出浩・破田野智己・角田あさな著 ミネル
ヴァ書房 2021.3

『娘の遺体は凍っていた』文春オンライン特集班
文藝春秋 2021.9

『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』
寺町晋哉著 晃洋書房 2021.8

『多様な学びを創る』多様な学び保障法を実現す
る会 東京シューレ 2021.9

『選手主体の時短練習で花園へ』佐々木陽平 竹
書房 2021.10

『学びに凸凹のある子が輝くデジタル時代の教育
支援ガイド』朝日新聞社著 学研教育みらい
2021.10

『学校ってなんだ!』工藤勇一・鴻上尚史著 講
談社 2021.8

『異文化コミュニケーション学』鳥飼玖美子著
岩波書店 2021.7

『教育依存社会アメリカ』デイヴィッド ラバ
リー著 岩波書店 2018.6

『アメリカ教育の真髄』ローレンス A. クレミ
ン著 晃洋書房 2021.9

『新型コロナワクチン本当の「真実」』宮坂昌之
著 講談社 2021.8

『デジタル・ファシズム』堤未果著 NHK出版
2021.8

『権力は腐敗する』前川喜平著 毎日新聞出版
2021.9

『SDGsの不都合な真実』杉山大志 編著 川
口マーン恵美 掛谷英紀 有馬純 ほか 著
宝島社 2021.9

『アメリカの高校生が学んでいるお金の教科書』
アンドリュー O スミス著 桜田直美訳 S
Bクリエイティブ 2019.11

『リーディングス日本の教育と社会 教師という
仕事』第15巻 油布佐和子編著 広田照幸監修
日本図書センター 2009.2

『子どもの目が危ない』大石寛人 NHKスペ

シャル取材班著 NHK出版 2021.6

『囚われのいじめ問題』北澤毅, 間山広朗編 岩
波書店 2021.9

『思いがけず利他』中島岳志著 ミシマ社
2021.10

『二極化する学校』志水宏吉著 亜紀書房
2021.9

『学力格差への処方箋』耳塚寛明著 勁草書房
2021.5

【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】

『彼岸花が咲く島』李琴峰著 文藝春秋 2021.6

『運転者』喜多川泰著 ディスカヴァー・トゥエ
ンティワン 2019.3

『貝に続く場所にて』石沢麻依著 講談社
2021.7

『テスカトリポカ』佐藤究著 KADOKAWA
2021.2

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー
2』ブレイディみかこ著 新潮社 2021.9

『星を掬う』町田そのこ著 中央公論新社
2021.10

『やさしい猫』中島京子著 中央公論新社
2021.8

『星落ちて、なお』澤田瞳子著 文藝春秋
2021.5

『狙われる18歳』日本弁護士連合会消費者問題対
策委員会著 岩波書店 2021.3

編集後記

緊急事態宣言中の制限がさまざまところに影
響し、いろいろなことが変わってきています。そ
んな中変わらないのは学びの本質「知りたい」と
いう思いです。図書館は本の貸出だけでなく、情
報検索の方法を提供する場です。皆様の学びを楽
しく支えていく図書館でありたいと思います。

(川内)

教育図書館案内

- * 開館時間：午前10時～午後4時30分
※ 午前10時～午後3時45分
閲覧はメール予約をお願いします。
✉ toshokan32304437@jec.or.jp
- * 開館日：(火)・(水)・(木)
- * 蔵書の貸出
貸出冊数：5冊／貸出期間：3週間
(利用者登録が必要です。)
- * 返却方法：窓口返却か「ブック・ポスト」をご利用下さい。
- * レファレンス・サービス
当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせはメールにてお願いいたします。
- * コピー：白黒1枚10円／カラー30円

特別コーナー

- 平和資料コーナー：
反核(原発関連)・平和運動、平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など
- 日教組刊行物コーナー：
日教組教育新聞・教育評論・月刊JTUなど
- 教育総研刊行物コーナー：
年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」、各研究委員会報告書など
- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- 文部科学省統計調査報告書・刊行物：
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- 海老原治善文庫：元東京学芸大学教授、教育総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書
- 鈴木喜代春文庫：児童文学者、元教育相談室相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書
- 人権・防災・減災コーナー：
人権関係、東日本大震災災害の記録など

蔵書の特徴

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 蔵書数 約69,000冊(2021年6月現在)
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面から検索できます。
(<https://ilisod001.apsel.jp/kyoikutoshokan.lib/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>)
- 千代田区立図書館のホームページ「大学・専門図書館横断検索」からも教育図書館の蔵書が検索できます。

交通案内

- 神保町駅 A1出口より徒歩3分
- 九段下駅 6番出口より徒歩7分
- 竹橋駅 1b出口より徒歩5分
- 水道橋駅西口 徒歩12分(JR総武線)

アクセス抜群
神保町駅から徒歩3分
802名収容の大ホール



日本教育会館
ツタホール・会議室のご案内
一般財団法人日本教育会館

10～300名
まで使える
会議室(18室)

1階画廊
もご利用できます

一般財団法人日本教育会館
TEL 03-3230-2831
<https://www.jec.or.jp/>
受付時間 9:00～17:00